

JAUW 茨城支部だより 2025 年度-2号

2025 年 10 月 27 日一般社団法人 大学女性協会(JAUW)茨城支部 発行

仄かに金木犀の香りが漂っています。秋を実感する香りです。秋はもう来ないのではないかと思える程長くて酷暑の夏でしたが、皆様方いかがお過ごしでしょうか。台風の強力化と巨大化。線状降水帯やゲリラ豪雨の多発。温暖化の影響とされています。地球は大丈夫なのでしょう。自分にできることは何かを考え、「自分一人くらいやらなくても」の考えを捨ててほしいと切に願います。

第1号の支部だよりで、「女性が代表になっていないのは政治の世界だけ？」と書きましたが、日本の憲政史上初の女性の内閣総理大臣が誕生しました。選ばれた人物については賛否両論あると思いますが、女性トップの好例となって、女性の評価を上げられるような活躍を期待したいと思います。ただ、「選択的夫婦別姓」は遠のきましたね。

去る9月21日(日)に、水戸市男女平等参画推進月間市民企画講座「理系女子の育ち方-女性は理系で道拓く-」を開催しました。今回は、理系女子3人をパネラーとしてお招きし、パネルディスカッションを行いました。間陽子さん、大矢根綾子さん、小松ひよりさんの3人はみな素晴らしい方々で年代によっておかれた環境の違いをうかがい知ることができ有意義な時間を持つことができました。今年日本人二人が理系のノーベル賞を受賞しました。近いうちに女性の受賞者が誕生してほしいものです。

支部長 飯田 久子

私が最近訪れたところの写真です。



常陸太田市源氏川の曼珠沙華



池間大橋と宮古島ブルーの海

ヒューマンライフシンポジウム2025～未来へつなぐメッセージ～に参加して

9月27日（土）に開催されたヒューマンライフシンポジウムは、一部は茨城大学長田華子准教授による講演「ジェンダー平等な社会をつくるために～過去・現在、そして未来に向けて、私たちにできること」、二部は、高校生2グループの発表「制服の偏見をなくすには～誰もが自由に制服を選択できる社会～」 「表現する性～びよんどジェンダー、びよんどファッション～」の二部構成でした。

一部の長田准教授の話は、ジェンダー平等【ひとりひとりの人間が、性別にかかわらず、平等に責任や権利や機会を分かちあい、あらゆる物事を一緒に決めることができる】の今日までの歴史、ジェンダーギャップ2025年148カ国中118位（G7の中で最下位）と、何故日本においてジェンダー格差が縮まらないのかやジェンダー平等社会に向けて取り組むべき課題等について話されました。長田准教授の話から、無意識の思い込み（男は仕事、女は家庭）、日本社会の制度や慣行の問題が根深くあるということ、社会保障制度や税制、法制度、企業や地域、家庭における慣行は、高度経済成長期の「男性稼ぎ主」型が前提になっているということ、これではジェンダー平等がなかなか進まない訳です。「無意識の思い込みは、往々にして幼少のころから長年にわたって形成される」「幼少期から性別にもとづく固定観念を生じさせないこと」と長田准教授は述べており、幼少期からの教育の大切さを改めて痛感しました。レジュメの中に、ライターのヨッピーさんが、世の中の父親は「子育てする権利」を奪われてきたという文があり、少しずつジェンダー平等は進んでいるとは思いますが。

二部は、元気な高校生2グループが、ジェンダー平等の観点から、制服の？ファッションの？についての調査、今後の取り組みなどを発表されました。高校生の発表から、今の若者の意識を見ることができました。元気のある服飾に関する発表から、見た目や性別で判断しないジェンダー平等な社会の実現に光が見えたように思います。

※1995年の第4回世界女性会議（北京会議）で、「ジェンダー平等」という言葉が、初めて公式に使われた。
（安藤隆子）

＜お知らせ＞ 会員の皆様是非ご参加ください。

・11月定例会 講演会

演題 「少子化対策とそのケアについて」
日時 令和7年11月29日（土）
会場 水戸市役所 4階中会議室4
講師 大瀧真生子さん（松下政経塾卒塾生）

・新春の集い

日時 令和8年1月24日（日）午前11時30分～
会場 水戸京成ホテル 景山

※参加される方は、ラインまたは090-9316-0431 飯田までご連絡ください。

水戸市男女平等参画推進月間市民企画講座

「理系女子の育ち方」—女性は理系で道拓く—に参加して

登壇者は東京大学大学院農学生命科学研究科特任教授の60代の間陽子さん、つくば市在住の産業技術総合研究所総括研究主幹の50代の大矢根綾子さん、そして筑波大学理工情報生命学術院博士後期課程2年生の20代の小松ひよりさんのお三方。ファシリテーターは中島美那子副支部長。

小松さんはサラリーマンのお父さんと専業主婦のお母さんという核家族家庭に育ち、小学校6年生の時に研究者になろうと思ったとのことですが、理系に進むことに反対はなく、両親とも応援をしてくれたとのこと。茨城高専から山梨大学を経て、現在は筑波大学で魚の「鱈」をつかって止血剤などの接着剤を創る研究をしている。お聞きしながら、丁度私の子どもたちが親世代に当たるのだろうか、自分らしく生きてこられたのだろうかと思いを馳せ、自分が進学の際に、父親から年子の兄がいることで、常時、性別役割分業意識を押し付けられ、それを受け入れてきた自分とは隔世の感があることを確認しながら拝聴した。

大矢根さんのお話をお聞きするのは2度目。研究生を送りながらお連れ合いの闘病生活を支えての研究の仕事と家庭の両立は、さぞご苦労があったのではないかと推察した。でも今はそれを乗り越えて、研究主幹に昇り詰められ、3人のお子様もお母さんの背中をみてお育ちになったのではないかと、自身が母親の気分で、「よくやり続けましたね」と褒めたい思いで拝聴した。

最後に登壇された間さんは、理研の研究所にも在籍された経験をお持ちの60代。日本で2番目に「獣医学博士」を取得されている。お父さんは日本一早い競走馬を育成することに生涯をかけた方で、お母さんは自立する道を教えてくれた方という。ご自身は小学校5年生の時に「キュリー夫人伝」を読んで影響を受け、自然現象を勉強することや野山を探索することに楽しみをもつ少女時代であったこと、長じてウィルスの研究の道に入り長年研究生生活を送ってこられている。また間さんの好きな言葉は「桜・梅・桃・李」という言葉で、自分しかない個性を开花させることができれば幸せだとおっしゃいます。

隔世の感がある今どきの理系女子や先輩理系女子のトークは大変面白く、興味深く拝聴しました。好きな道に進むことができる今時の女性の幸せが永遠に続きますように、私たち先輩女子の役割分業意識に囚われない、応援・支援大切ですね。

(松本由美子)



【会員コーナー】

朝は来た 賑やかだ

2020年1月に日本に到着した新型コロナウイルスに感染すると忽ち、両肺が真っ白になり高熱が下がらず命をとられてしまいます。当時、治療薬も予防薬もない、この目に見えないウイルスに感染しないようにと細菌学者の懸命の研究と指導のお蔭で日本列島はパンデミックから免れました。マスク着用、手洗いうがいの励行、絶えず変異するウイルスへのワクチン接種、これらを守った我々素直な心と清潔好きな民族、しかし特筆すべきは豊富な良質の水にあると思います。丸5年経った今でも変異株（俗称ニンバス）が活躍し、全国で3万人もの感染者が居りますので油断は出来ません。

私とは云えば、感染症、特に酷い後遺障害を恐れるあまり徹底的に外出を控えた所、半年も経たぬ間に寢床から立ち上がれなくなりました（脚力）。歌う時に高い声が出ず（声帯）、食欲がなくなり、体内のゴミを排出する力もなくなりました。これはサルコペニア（筋肉減弱症）で、フレイル（健康と要介護の中間の状態）の最大要因です。幼時からの絵本、お伽噺の世界に生きてきた頭の中は、これには大慌て。早速NHKの「今日の健康」を買って来て勉強を始めました。フレイル予防には、「運動」「食事・口腔ケア」「支え合い」が大事です。健康第1は分かっているが、私の眼は面白そうな合言葉に釘付けとなりました。

まごわやさしいよ（豆・ごま・わかめ・野菜・魚・しいたけ（茸類）・芋・ヨーグルト）。これは昔からある言葉にヨーグルトをつけたもの。

あさはきたにぎやかだ（油・魚・発酵食品・茸・卵・肉・牛乳・野菜・海藻・大豆）。これが長野県で50年以上「健康づくり」を行って来た鎌田實医師の作った合言葉です。

難しくない鎌田式の運動と料理を実践して明るく生きていこうと思います。（後藤美智子）

—編集後記—

想定外、まさかの坂など、驚きを表す言葉がありますが、激動に時代には思いもよらぬことが次々と起こるものです。驚きの連続の中でも忘れてはいけないのは、命ほど大切なものはないこと。平和な世の中を作らなくてはいけない事。核兵器にまつわる記事を読むと、核兵器の恐ろしさを知らない人は世界中には多くいると感じます。

時代が変わっても世の中が変わっても変わらない正義を見つめていきたいものです。（白ゆり）